



60代の実像③：生活満足度を高める要因 ～住まい、資産水準、年齢、家族構成～

「60代6000人の声」アンケート調査2025より

合同会社フィンウェル研究所

代表 野尻哲史

2025年3月20日

3月23日改定

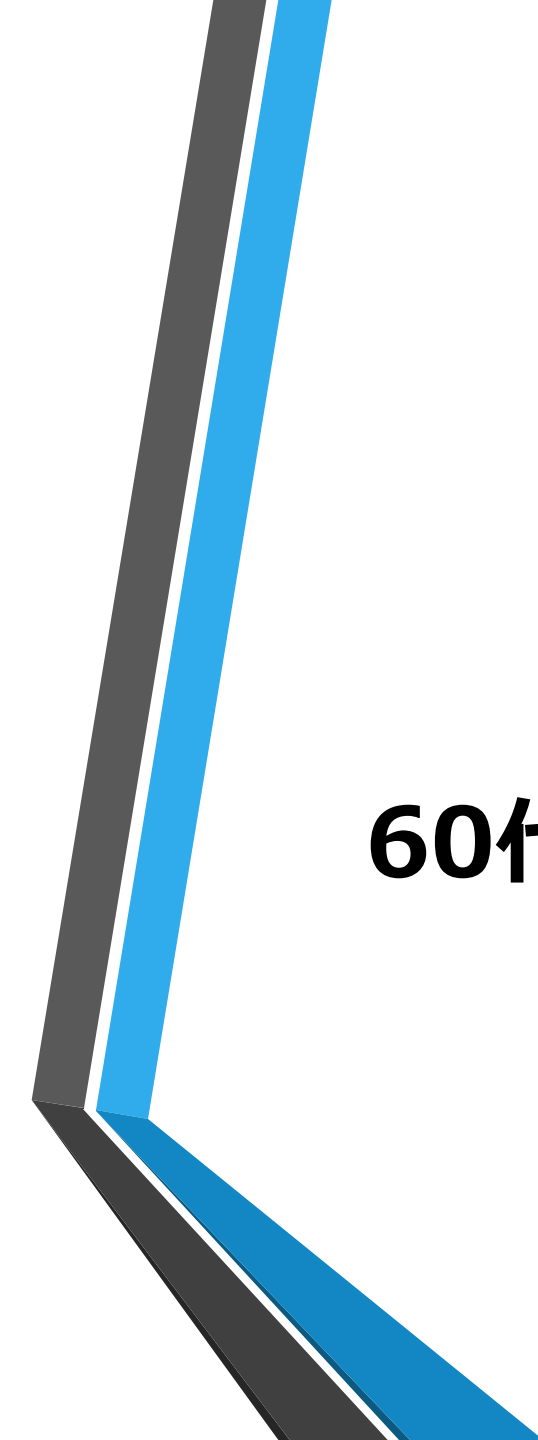
60代6000人の声：データ分析結果の要旨

□ 賃貸か、持ち家か

- 60代6000人の都市生活者は、その4分の3が持ち家派
- 持ち家派の方が生活全般の満足度は高い
- そのため、持ち家派は、住んでいる都市の評価軸に「家賃や住居費の安さ」を入れていない。
- 重回帰分析の結果でも、持ち家の生活全般の満足に与える影響は大きいことが分かった

□ 5つの満足度に影響を与えているもの

- 5つの満足度に共通に影響しているのは、①年齢が高いほど、②配偶者がいるほど、③世帯年収が高いほど、④70代の生活イメージが明るいほど、すべての満足度が高い。

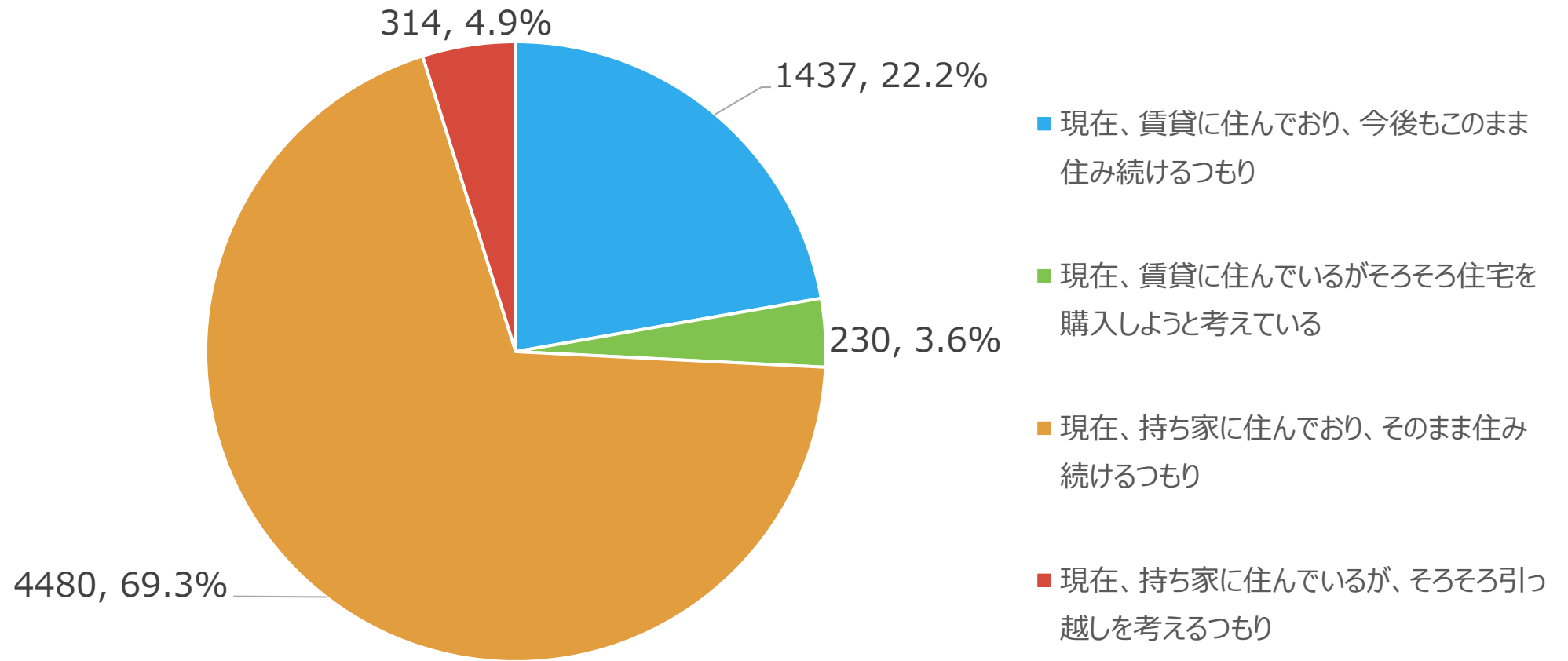


60代6000人の声 2025 : 持ち家と生活全般の満足度

4分の3が持ち家

現在の居住状況

(単位：人、%)

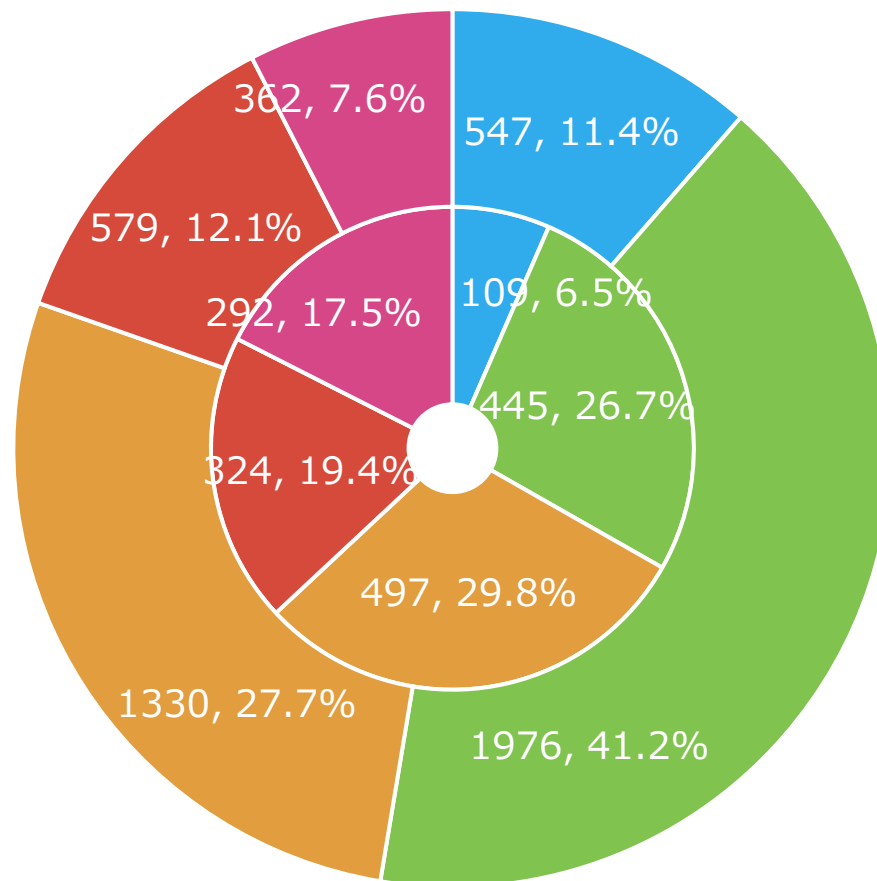


(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

持ち家が生活全般の満足度に

居住状況別の生活全般の満足度

(単位：人)



外円：持ち家
内円：賃貸

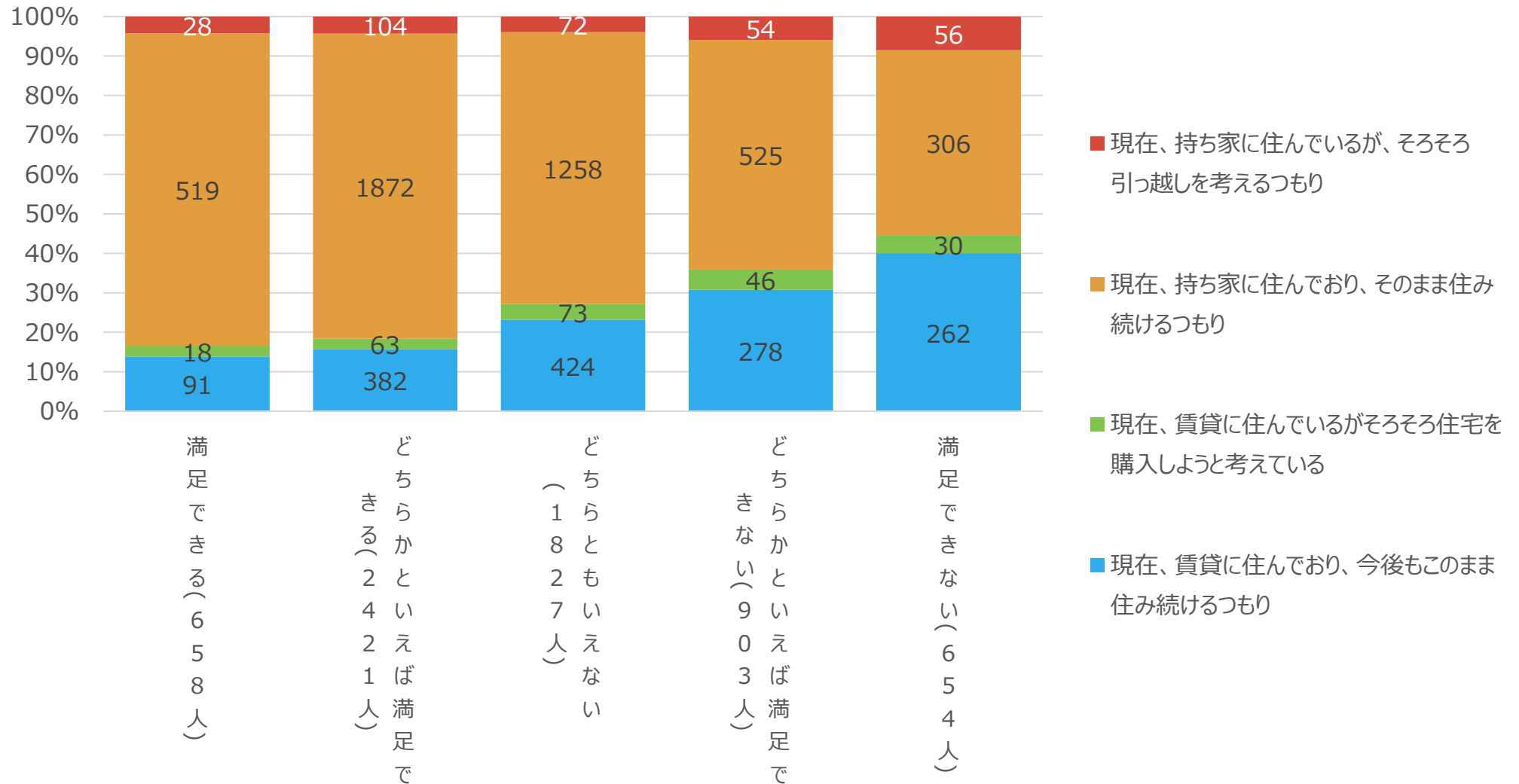
- 満足できる(658人)
- どちらかといえば満足できる(2421人)
- どちらともいえない(1827人)
- どちらかといえば満足できない(903人)
- 満足できない(654人)

(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

持ち家が生活全般の満足度に

生活全般の満足度別の居住状況

(単位：人)



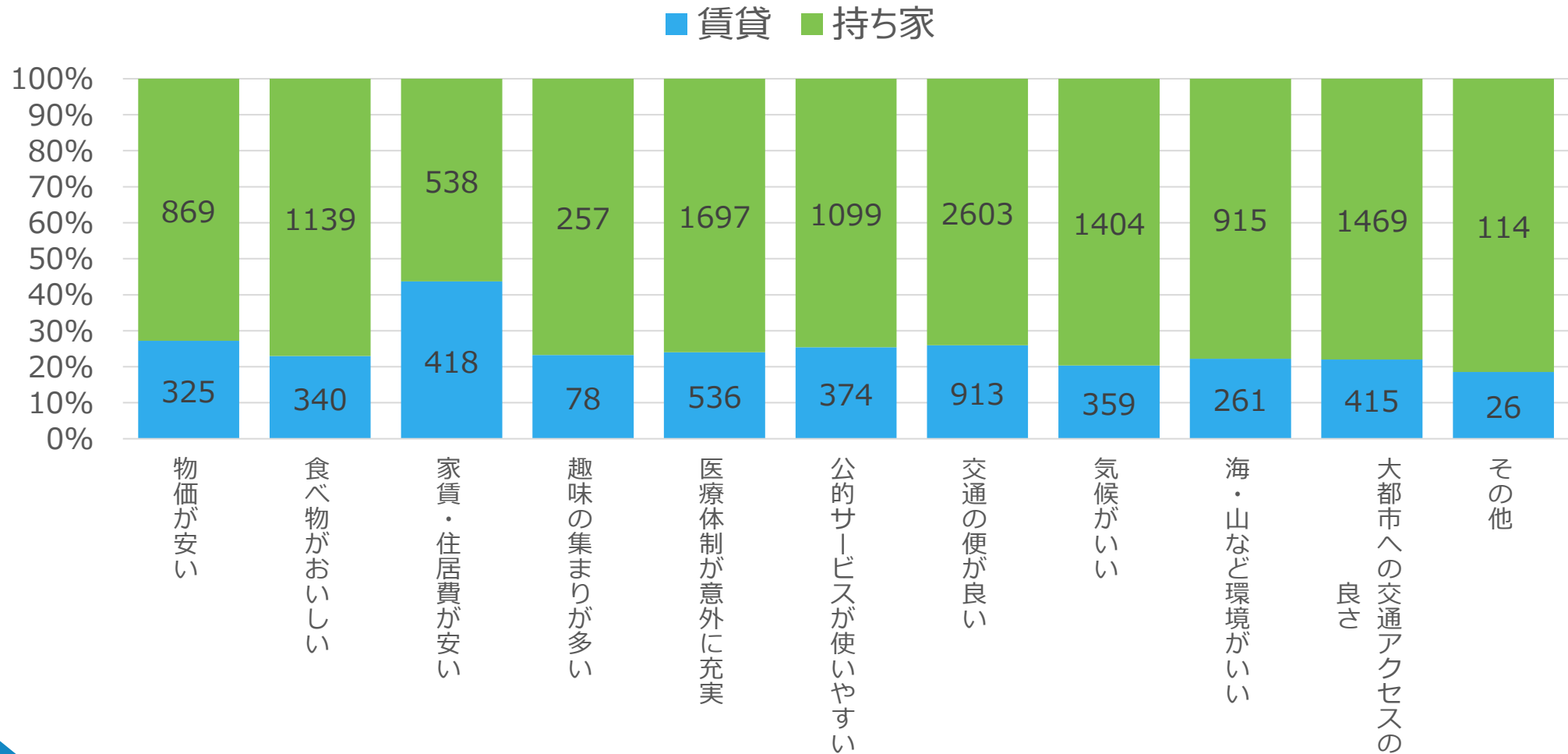
(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

@2025 FinWell Research LLC All rights reserved

持ち家が都市評価の一因

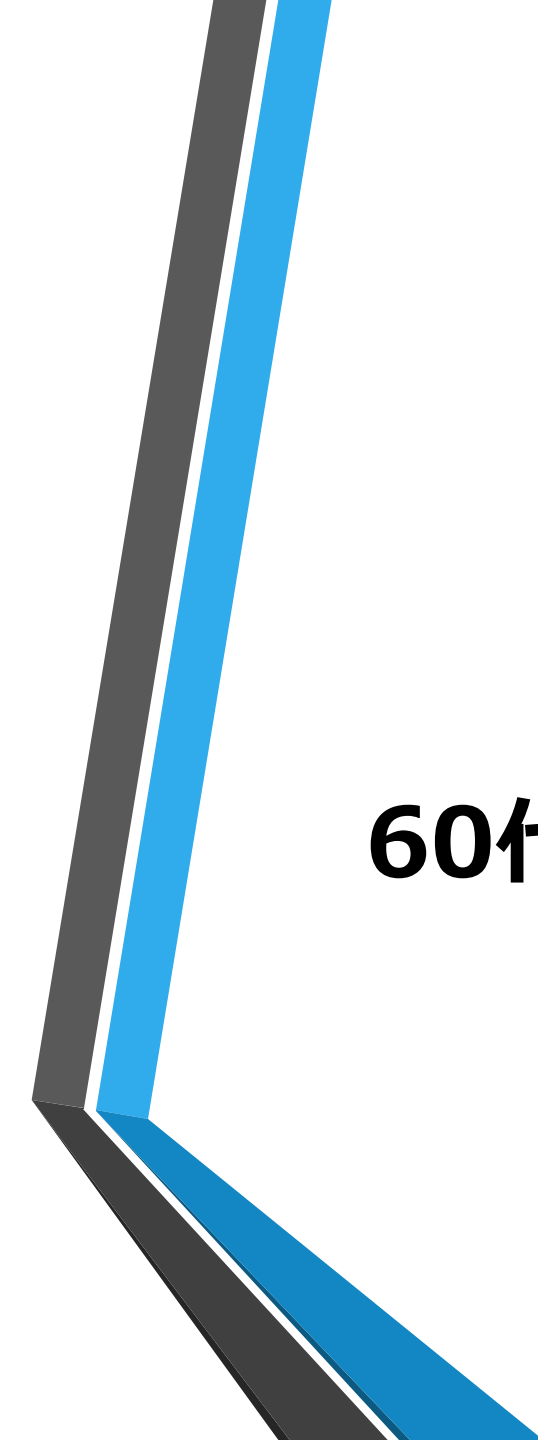
都市の良いところの項目別の居住状況

(単位 : %)



(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

@2025 FinWell Research LLC All rights reserved



60代6000人の声 2025 : 生活全般の満足度を高める要因

生活全般満足度への影響力

生活全般の満足度を被説明変数とした重回帰分析

重相関係数	決定係数	変 数	偏回帰係数	P 値	
R	0.7274	資産水準満足度	0.387	P < 0.001	**
修正R	0.7269	健康状態満足度	0.177	P < 0.001	**
R2乗	0.5291	人間関係満足度	0.175	P < 0.001	**
修正R2乗	0.5283	居住状況	0.146	P < 0.001	**
		仕事・やりがい満足度	0.143	P < 0.001	**
		配偶者	0.136	P < 0.001	**
		70代以降の生活イメージ	-0.113	P < 0.001	**
		同居の親	-0.091	0.0048	**
		資産運用状況	0.089	P < 0.001	**
		年金受給	0.080	P < 0.001	**
		定数項	0.524	P < 0.001	**

注) 70歳以降の生活のイメージは良くなっている = 1、変わらない = 2、悪くなっている 3 で計算しているため、数値のマイナスは良くなっているほど生活全般の満足度が高いことを意味する。居住状況は持ち家 = 1 としてダミー化、配偶者は有り = 1 としてダミー化、同居の親は有り = 1 としてダミー化、資産運用状況は運用している = 1 としてダミー化、年金受給は受給 = 1 としてダミー化。**はP値1%以下の有意水準

(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

年齢、配偶者、年収が影響

それぞれの満足度は何に影響を受けるのか(重回帰分析結果①)

	生活全般満足度			資産水準の満足度		
R2乗	0.213			0.309		
変数	偏回帰係数	P 値		偏回帰係数	P 値	
年齢	0.0222	P < 0.001	**	0.0205	P < 0.001	**
性別	-0.1489	P < 0.001	**	-0.1442	P < 0.001	**
配偶者	0.2736	P < 0.001	**	0.1425	P < 0.001	**
同居の子ども	-0.0768	0.0093	**	-0.0490	0.0817	
同居の親	-0.1159	0.0055	**	0.0113	0.7765	
居住状況	0.2817	P < 0.001	**	0.2544	P < 0.001	**
世帯年収	0.0302	P < 0.001	**	0.0182	P < 0.001	**
世帯資産	0.0037	P < 0.001	**	0.0103	P < 0.001	**
年金受給	0.0584	0.1017		0.0166	0.6258	
年間生活費	-0.0071	0.2413		-0.0160	0.0060	**
お金の近視眼度	0.0307	P < 0.001	**	0.0486	P < 0.001	**
資産運用	0.2251	P < 0.001	**	0.2404	P < 0.001	**
70代以降生活観	-0.4697	P < 0.001	**	-0.5273	P < 0.001	**
資産の使い道	-0.0028	0.7700		0.0062	0.4890	

- 5つの満足度に共通に影響しているのは、①年齢が高いほど、②配偶者がいるほど、③世帯年収が高いほど、④70代の生活イメージが明るいほど、すべての満足度が高い。
- 子どもが同居していること、親が同居していることが生活全般の満足度を下げている。
- 世帯資産の多さは生活全般と資産水準の満足度だけで有意に影響している。
- お金に対する近視眼的な見方が少ないほど生活全般、資産水準の満足度が高い。
- 年金受給の有無は、生活全般、資産水準ともに影響がなかった。
- 年間生活費が高いほど資産水準の満足度は低くなる

(注)性別は男性 = 1、配偶者有り = 1、同居子ども有り = 1、同居親有り = 1、居住状況は持ち家 = 1、年金受給 = 1、資産運用は資産運用をしている = 1 でダミー化、お金の近視眼度は「1年後の11万円よりも今の10万円を受け取る」が当てはまらない度合い、70代以上生活観は70代生活が悪くなっている度合い、資産の使い道は70代の生活を優先する度合い。**は1%未満の有意度（出所）「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

年齢、配偶者、年収が影響

それぞれの満足度は何に影響を受けるのか(重回帰分析結果②)

	人間関係の満足度			仕事やりがい満足度			健康水準の満足度		
R2乗	0.089			0.096			0.088		
変数	偏回帰係数	P 値		偏回帰係数	P 値		偏回帰係数	P 値	
年齢	0.0198	P < 0.001	**	0.0261	P < 0.001	**	0.0204	0.0012	**
性別	-0.1397	P < 0.001	**	-0.0708	0.0144	*	-0.0943	0.0023	**
配偶者	0.2438	P < 0.001	**	0.1183	P < 0.001	**	0.1421	P < 0.001	**
同居の子ども	-0.0185	0.5002		-0.0321	0.2621		-0.0110	0.7188	
同居の親	-0.0947	0.0149	*	-0.0014	0.9732		-0.0878	0.0421	*
居住状況	0.0647	0.0227	*	0.0656	0.0264	*	0.1113	P < 0.001	**
世帯年収	0.0276	P < 0.001	**	0.0441	P < 0.001	**	0.0212	P < 0.001	**
世帯資産	0.0009	0.0673		-0.0003	0.4914		0.0002	0.6505	
年金受給	0.0191	0.5656		-0.0741	0.0321	*	-0.1204	0.0011	**
年間生活費	0.0007	0.8986		0.0010	0.8686		-0.0039	0.5352	
お金の近視眼度	-0.0029	0.7119		0.0087	0.2810		-0.0048	0.5760	
資産運用	0.0639	0.0177	*	0.0910	0.0012	**	0.1317	P < 0.001	**
70代以降生活観	-0.2542	P < 0.001	**	-0.3006	P < 0.001	**	-0.3834	P < 0.001	**
資産の使い道	-0.0090	0.3051		-0.0246	0.0071	**	-0.0453	P < 0.001	**

- 配偶者がいることが人間関係の満足度を高めるように大きく影響している。
- 資産運用を行っていることが仕事やりがい、健康水準の満足度を引き上げるように働いている。

(注)性別は男性 = 1、配偶者有り = 1、同居子ども有り = 1、同居親有り = 1、居住状況は持ち家 = 1、年金受給 = 1、資産運用は資産運用をしている = 1でダミー化、お金の近視眼度は「1年後の11万円よりも今の10万円を受け取る」の当てはまらない度合い、70代以上生活観は70代生活が悪くなっている度合い、資産の使い道は70代の生活を優先する度合い。**は1%未満、*は5%未満の有意度（出所）「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

重要事項

- 当該資料は信頼できる情報、データをもとに合同会社フィンウェル研究所が作成しておりますが、正確性・完全性に関して当社が保証するものではありません。
- 当該資料に記載された情報、意見は作成時点のものであり、その後の情勢の変化などによって予告なく変更することがあります。
- いずれの情報、データ、意見は将来の傾向などを保証もしくは示唆するものではありません。
- 当該資料に係る一切の権利は引用部分を除いて弊社に所属し、いかなる目的であれ当該資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断りします。

合同会社フィンウェル研究所